

おやつのかん3 -ちょっとひとやすみ-

—ヒントはその裏側にも—

NO. 17



「またやっちゃった…」 「何度やれば失敗しないようになるのかな…」 と、自分自身が情けなくなってしまうたり、自分に腹が立ったりすることってありませんか。私も“学ばない輩”の典型例です。最近、そんな自分を「これが自分らしさなのかもしれないな」となぐさめちゃうことも。でもでも、人に迷惑が掛かってしまうようなことはいけません、成長しなくちゃダメですね。

子ども達の普段の行動の中で、なかなか上手くいかないことがあります。何度やっても、何度教えてもやってしまう行動があると思います。繰り返されると大人はしんどいですね。子ども自身も顔は笑っていても、きっと困っていると思います。「またやっちゃったよ」「また叱られる」ってね。

新たに興味を持ち始めたこと、例えば、いじりたくなってきた物が増えてきたのなら、どう使えばよいか、どこでなら使って大丈夫なのかを、その都度コツコツと教えていくことがベースになりますね。例えば、お友達と関わりたい気持ちが膨らんできて、距離がとても近くなったがために、上手く関われずにハプニングになってしまうこともあると思います。それも、止めるだけでなく、どう関わっていけばよいか、取り出してわかりやすく伝えることを繰り返すのが基本です。でも、そんな場面はいつも突然やってきて、相手が嫌な思いをしたときには、もちろん謝らなければならず、あまり繰り返されると、わかっちゃいるけど、身近な大人の語気も強くなってしまいます。

そこで、もうひとつの視点です。

“座ってられないことが多いな”という行動が目立っている子。だけど、常に座ってられないわけじゃないはず。座っているときってどんな時でしょう？目の前のことに集中できているとき？その集中できるものってなんででしょう？どんな場所？どんな時間？どんな絵本？そこに関わりのヒントが隠されています。“座れるようにする”のではなく“座ってられる時間を長くする”という発想です。

“最近、よく物を投げてしまって”という行動が気になってきた子。逆に、物を投げないで過ごせているときってそんな場面でしょう？そのもののいじり方（使い方）が分かっているとき？それはどんなもの？原因と結果が分かりやすいおもちゃだったり、手指の器用さとおもちゃがマッチしているものだったり。そこが見定められれば、身近に置いておくおもちゃやグッズの工夫ができます。

“投げないようにする”のではなく“遊べるものを増やす”という発想です。

“お友達に手が出てしまう”ことが目立っている子。手を上げないで、上手く過ごせるのはどんな場面でしょう？お決まりの流れのとき？各自に道具が準備されているとき？やることがはっきりしているとき？その子の集中力が落ちていないとき？そこがつかめれば、注意を払う場面と、その子を信じて任せられる場面とが整理できます。“手を出さないようにする”のではなく“上手に関わる場面を増やしていく”という発想です。

一緒に考えていきましょう！関わりのヒントは、いつも目にしていそうで見ていない裏側の場面（安心して過ごせている場面）に隠されているかもしれません。きっと「こんなに上手にできていたんだ」と、ギュッとしたくなっちゃう気づきがあると思います。(H29. 10) K

